高血圧管理・治療ガイドライン2025（JSH2025）について

本年８月29日に日本高血圧学会は６年ぶりに高血圧管理・治療ガイドラインを改訂しました。2000年から高血圧学会は国内のガイドラインを作成していますが、その内容が十分に生かされておらず、我が国の高血圧コントロール状況が主要経済国の中で最下位であることに危機感を覚えています。そのため今回のガイドラインは実際に血圧を下げる行動に結びつくことを意識して作成されました。

降圧目標は年齢によらず基本的に診察室血圧で130／80未満（家庭血圧で125／75未満）に統一され、低・中等リスクの患者でも生活習慣の改善で効果がなければ１か月以内には薬物療法を開始することを求めています。また降圧薬のグループ分類を新設し、単剤でも脳心血管病抑制効果がある５種類の薬剤（長時間作用型ジヒドロピリジン系Ca拮抗薬、ARB、ACE阻害薬、少量サイアザイド系利尿薬、β遮断薬）を主要降圧薬（グループ１）と位置付け、さらにその後の治療STEPについても明示し、速やかに降圧目標の達成を目指す内容となっています。

また昨年来、血圧に関する誤った情報がSNS等で拡散され患者様や医療現場に混乱をもたらしたこともあり、学会自身が正確な情報を分かりやすく発信することが重要と考え「高血圧の10のファクト～国民の皆さんへ～」をHPに公開するとともに、国民向けの新しい動画配信チャンネル「良塩くんの部屋」を開設し、特に心血管疾患のリスク上昇に重要な影響を及ぼす朝の血圧を下げる『血圧朝活キャンペーン』の啓発活動に力を入れています。

日本の高血圧患者は4,000万人を超えており、循環器内科医だけで管理できる人数を超えています。北海道は近年、夏の暑さと冬の寒さの気温差が拡大しており、血圧の管理が今まで以上に重要な地域となっています。また広大な北海道では内科医はもとより、他の診療科の先生が血圧を管理せざるを得ないことも多くあると考え、広く会員の皆様に高血圧治療について正しい情報を確認していただく機会になればと今回投稿させていただきました。また会員の皆様のところにかかりつけの患者様にも興味を持っていただけますように、学会が作成した啓蒙用ポスターを同封させていただきましたので待合室へ掲示していただくなどご活用いただけましたら幸いです。

古本　智夫
NTT東日本札幌病院　循環器内科
日本高血圧学会　評議員

大屋　祐輔
沖縄県北部医療財団　理事長
高血圧管理・治療ガイドライン2025作成委員長

感染症関連情報

感染症に関する情報につきましては、北海道医師会ホームページ「医師の皆様へ－感染症情報」に掲載しています。

ＵＲＬ：http://www.hokkaido.med.or.jp/doctor/infection.html